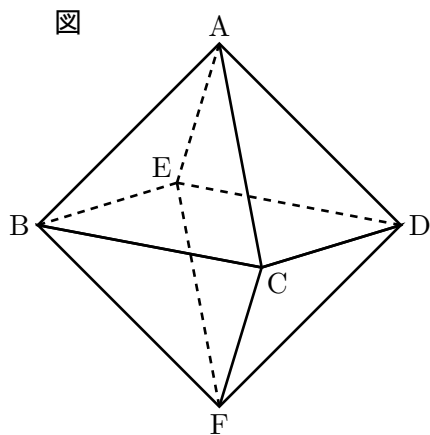


僕はこうやって正八面体を書いています。



```

\begin{pszhyou*} [ul=8mm,linewidth=1pt] (-3,3) (-3,3)
\Put{(-2.5,3)}[n]{ 図 }
\tenretu{A(0,3)n;B(-3,0)w;C(0.7,-0.7)se;D(3,0)e;E(-0.7,0.7)nw;F(0,-3)s}
\Takakkei{A#B#C#D}
\Takakkei{B#F#D#C}
\Drawlines{A#C#F}
\Hasens{A#E#B;#D#E#F}
\end{pszhyou*}

```

この図を書くポイントは、四角形 ABFD が正方形になるように書いてるだけです。あとの座標は勘で決めています。これが、`emath` の座標環境のよさでもあります。3次元で難しければ、2次元で処理してしまいましょう。細かな調整は2次元の座標をいじって調節しちゃいましょう(本当はいけない?)。ですから、これおかしいなと思えば、適度に座標をいじって見た目を綺麗にすれば、あたかも3次元で処理したかのようなプリントができます。